

横浜キネマ倶楽部
第60号 会報
2020年9月22日発行
第60回記念上映会

風のある道

西河克己監督作品

1959年/日本/モノクロ/89分/ブルーレイ上映



(C) 日活

2020年9月22日(火・祝)

[上映時間] 14:00
[講演] 15:35~16:05 講師：高崎俊夫さん(映画評論家)
[会場] 神奈川県立音楽堂

『風のある道』

【物語】

竹島家の次女・直子は、姉・恵子が祝福を受けながら嫁いでいった夜、華道矢田流の後継者・光介との結婚について考えていた。家元である光介の母から華道の才能を高く買われた直子は、後継者として嘱望されていた。その光介の母が姉の結婚式場で再起不能の病に倒れたため、結婚が急がれることになったのだ。しかし直子は、光介の性格に一抹の不安を感じていた。この結婚について両親の意見が対立しているのも、心を悩ます一因となっていた。数日後、光介が主催する新作発表会で、直子は精神薄弱児収容所みどり学園の教師をしている小林甚吉という青年を知った。名声と地位に恵まれている光介とは対照的な、卒直で飾り気のない甚吉の人柄に、直子は人間的な魅力を感じた。ある日、娘の結婚問題で夫と口論した母・宮子に旅行に誘われ

た直子は、母の計らいでやって来た光介と明るい太陽が輝く静かな湖畔で会った。その夜、光介が巧みに勧める酒に酔った直子は、何時しか光介の部屋へ誘い込まれていた。直子の留守中、甚吉から速達が届いていた。急用を心配して開封した妹・千加子を咎め、いつになく苛立たい態度の直子と甚吉から届いた速達を見た両親は、親らしい心遣いから彼を家へ招いた。しかし、そこに偶然光介も訪れ、直子との婚約発表と矢田流の新しい企画のためアメリカへ一緒に来てほしいと申し出た。二人の関係を知り、気がねした甚吉が家を辞そうとポケットから時計を取り出したとき、宮子はその時計をみて何故かハッとすることになった…。

【キャスト】

竹島直子・・・芦川いづみ	小林勘吉・・・葉山良二
竹島恵子・・・北原三枝	矢田光介・・・小高雄二
竹島千加子・・・清水まゆみ	真山英夫・・・岡田真澄
真山夫人・・・細川ちか子	竹島高秋・・・大坂志郎
小林雄之助・・・芦田伸介	竹島宮子・・・山根寿子
大川源三郎・・・深見泰三	近藤先生・・・信欣三

【スタッフ】

監督・・・西河克己
脚本・・・矢代静一/山内亮一/西河克己
音楽・・・池田正義
撮影・・・伊佐山三郎
原作・・・川端康成

<<< 西河克己監督 略歴 >>>

大正7(1918)年生まれ、智頭町慶所の出身。日本大学芸術学部を卒業後、松竹映画大船撮影所に入社。松竹、日活を経てフリーとなり、70年近い人生をすべて映画一筋で歩んでこられました。2010年、肺炎により永眠されました。デビュー作『伊豆の艶歌師』(52年)から『一杯のかけそば』(92年・タシケント映画祭特別賞受賞)まで、実に66本の作品を世に送り出しました。手がけた映画はアクション映画から純愛、人情作品など幅広いジャンルにわたっています。『草を刈る娘』(61年)は吉永小百合の主演第一作となり、その後石原裕次郎主演の『青年の椅子』(62年)などを手がけられました。70年代になると、リメイク作品(再映画化)としてもヒット作品が多く、“リメイクの帝王”と呼ばれていました。なかでも山口百恵、三浦友和の方がご覧になった代表作です。

一塩屋出店・西河克己映画記念館 ホームページより



ロケ地：神奈川県立音楽堂

1954年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは開館60年を経た今でも人々に感動をあたえつづけてます。

<<< 高崎俊夫さん プロフィール >>>

高崎俊夫 (たかさき・としお)

映画評論家 1954年 福島県生まれ。

『月刊イメージフォーラム』の編集部を経て、フリーランスの編集者に。

『キネマ旬報』『サンデー毎日』『ジャズ批評』に執筆している。

これまで手がけた単行本は『ロバート・アルトマン わが映画、わが人生』『オペラとシネマの誘惑』など多数。

著書に『祝祭の日々 私の映画アトランダム』がある。

また、書籍『芦川いづみ 愁いを含んで、ほのかに甘く』では、インタビューと編集を担当している。

<<< 横浜キネマ倶楽部より >>>

さかのぼること15年前、2005年10月、第1回上映会『美しい夏キリシマ』（黒木和雄監督）を関内ホールで上映いたしました。

これまでの間、皆様のご来場とご支援に支えられ、また、運営委員の地道な活動により、本上映会で第60回を迎えることができました。

このたび、第60回の記念として、映画のタイトルデザイナーで知られる赤松陽構造さんデザインによる、横浜キネマ倶楽部のロゴが、完成いたしましたことをここに報告します。



横浜キネマ倶楽部

ロゴデザイン 赤松陽構造

.....

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2020

昨年に引き続き、今年も「ヨコハマアートサイト2020」に採択されました！！

〈採択事業内容〉

ロケ地で映画を観賞しよう！！

聖地巡礼上映会

『1999年の夏休み』 in大倉山記念館(港北区) & 『風のある道』 in神奈川県立音楽堂(西区)

 2020年9月13日(日)「大倉山記念館 映画ロケ地巡り」報告

1回目：参加者 4名 2回目：参加者 2名

岡田運営委員の解説により貴重な話を聞きながら楽しい時間を共有できました。

参加者の皆様、ありがとうございました。

次回第61回上映会のお知らせ

『 アダムズ・アップル 』

2020年11月8日(日)

1回目上映時間 11:00 ~

講演: 12:40 ~ 13:10

2回目上映時間 14:00 ~

講演: 15:40 ~ 16:10

講師: 森百合子さん(北欧ジャーナリスト)

〔入場料〕 前売 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

〔会場〕 横浜市南公会堂 南区総合庁舎内3階

045-341-1261

横浜市営地下鉄「阪東橋」駅下車 徒歩8分 京浜急行「黄金町」駅下車 徒歩14分



<イントロダクション>

美しい田園風景のまった中でイヴァンとアダムが対面する冒頭から、誰もがこんな展開を想像するだろう。「罪を犯した者が善良な牧師のもとで人間愛に目覚め、社会復帰への道を歩み出す」。ところがその予想は根こそぎ覆され、銃弾が飛び交う過激なバイオレンス、不条理なユーモアが渦巻く映像世界へと観る者を誘っていく。アダムは「根っからの悪党」と自ら豪語するならず者だが、大いなる矛盾を抱えた牧師イヴァンと2人の前科者は、アダム以上に病んだクレイジーなキャラクターだ。人間の心理に潜む暗黒面をえぐり出すストーリー。そこに仕掛けられた“奇跡”の意味とは？人は変わることができるのか、一度壊れた人生をやり直すことは可能なのか、そして本当の希望や幸せはど

こにあるのか。そんな普遍的かつ根源的なテーマを、比類なきユーモアとアイロニーに満ちた切り口で描いてみせた衝撃作である。

監督・脚本: アナス・トマス・イェンセン
出演: マッツ・ミケルセン、ウルリッヒ・トムセン、パブリカ・ステーション
音楽: イエッペ・コース
撮影: セバスチャン・ブレンコー
原題: Adams æbler/2005年
デンマーク・ドイツ合作/94分/デンマーク語/カラー 日本語字幕: 原田りえ
配給: アダムズ・アップル LLP
© 2005 M&M Adams Apples ApS.

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行: 横浜キネマ倶楽部



…横浜キネマ倶楽部 連絡先…

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール: yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス: <https://yko.jimdofree.com/>